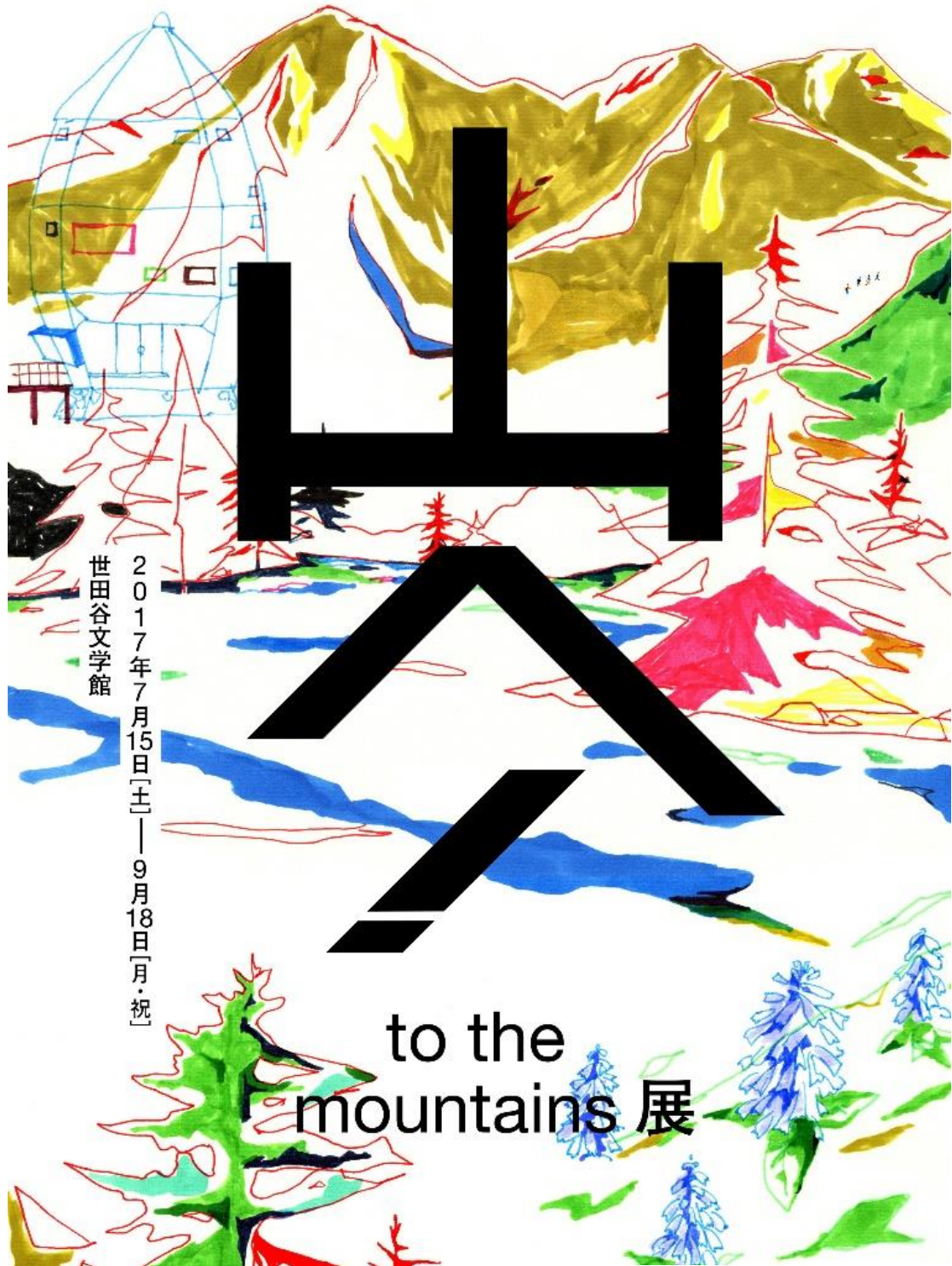


報道関係各位



世田谷文学館
2017年7月15日[土]—9月18日[月・祝]

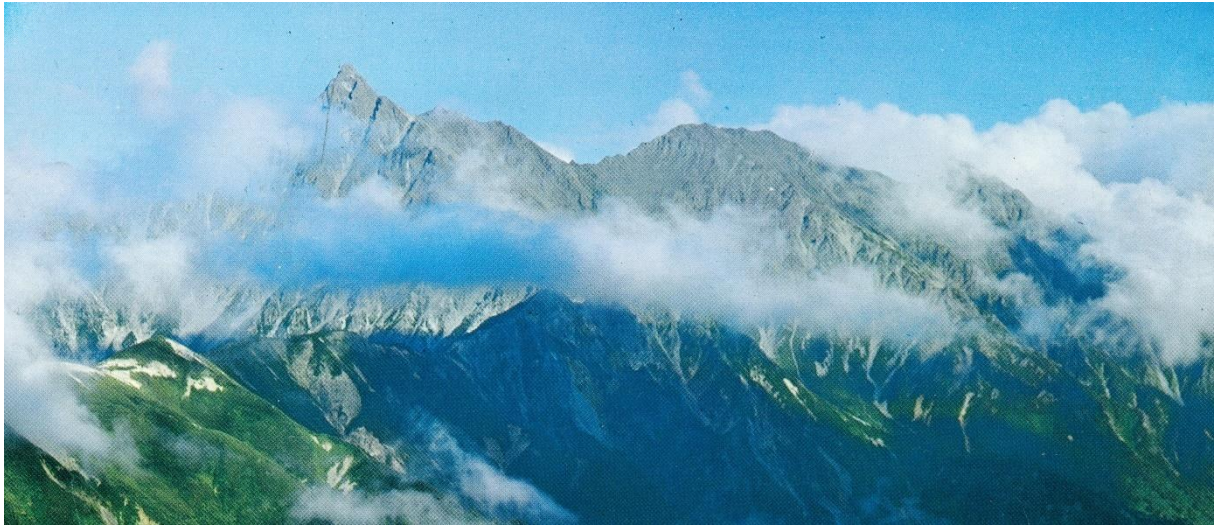
画像 1 illust:ミヤギユカリ / Design: 秋澤一彰

2017年7月15日[土]—9月18日[月・祝]

広報に関するお問い合わせ：世田谷文学館学芸部 井波・佐野
157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10 TEL 03-5374-9111 / FAX 03-5374-9120

世田谷文学館

CONCEPT コンセプト



『日本百名山』(新潮社)表紙より

“to the mountains”

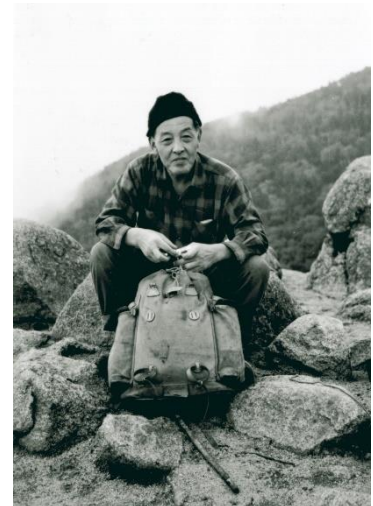
ひとは、この言葉に、どれだけの情熱を傾けてきたのでしょうか。

富士山が世界文化遺産に登録され、8月11日が「山の日」として国民の祝日になるなど、近年、山や登山への関心が広まっています。山は、古代から人々の暮らしと深くかかわってきました。山は、ある時は人々に恵みを授け、またある時は信仰の対象として、人々の精神を支えてきました。

『日本百名山』の著者である深田久弥は「山のような人間にならねばならぬ、山のような文章が書けるようにならねばならぬ」と語りました。

彼の独創的な自然観察眼と、信念により生み出された山の文学は今なお人々を魅了してやみません。

本展では、深田をはじめ、時代を超えて同じく山というフィールドで繰り広げられてきた多様なく知>とく表現>に迫ります。

画像2 深田久弥 国師ヶ岳の頂上で
1964 ©望月達夫

この夏、世田谷文学館は「**山を発見するミュージアム**」になります。

「自分にとっての山とは」「自然とは何か」を見つけていただければ幸いです。

TOPICS みどころ

I. 「山」を文学のみならず、学際的・多角的に展示する初の試み！

- ①不朽の名作『日本百名山』と **深田久弥**
- ②近代登山の先駆者、**小島烏水** の功績を辿る
- ③高山植物研究の第一人者 **田辺和雄** の「山日記」一挙公開！
- ④あの **田部井淳子** の エベレスト登頂装備一式を再現！
- ⑤漫画家 **坂本真一** が描く『孤高の人』加藤文太郎
- ⑥**石川直樹** の撮る国東半島と民俗



小島烏水
写真提供：日本山岳会



田辺和雄



田部井淳子
写真提供：タベイ企画



画像3 『孤高の人』
©坂本真一／集英社



画像4 石川直樹

II. 山岳写真家が写した・百名山 20 座

岡田紅陽、田淵行男、白川義員、白旗史朗による山岳写真の名作を展示

協力：川崎市市民ミュージアム

III. 山が会場にやってくる！ 鉱石標本「地質で語る百名山」

富士山、谷川岳、浅間山、大雪山、阿蘇山などの山の成分、鉱物を展示

協力：国立研究開発法人 産業技術総合研究所

IV. ル・コルビュジエの弟子、吉阪隆正 による山岳建築に注目！

モダニストでありながら、過酷な自然環境下に設計した山岳建築をご紹介

協力：早稲田大学建築学教室本庄アーカイブズ



吉阪隆正



画像5 野沢温泉ロッジ



※セタピンマーケット 2016 の様子

V. 日本山岳会 全面協力による多彩なイベント

☆今年も開催！ “古本と雑貨の蚤の市”セタピンマーケット 2017

ARTIST 作家

深田久弥 作家 登山家

文学



©望月達夫



©新潮社

ふかた・きゅうや(1903~1971) 石川県出身。東京帝国大学在学中より改造社編集部所属、のちに文筆生活に入る。戦後は登山家として数多くの山岳に登り、「山の文学」を生んだ。なかでも『日本百名山』はベストセラーとなった。晩年はヒマラヤ関係文献を蒐集し、それらをもとにヒマラヤ紹介に情熱を燃やした。

小島烏水 随筆家 登山家

先駆者



©日本山岳会



こじま・うすい(1873~1948) 銀行員をしながら、文筆活動を行う。英国人登山家ウォルター・ウェストンと交流を重ね、欧州で盛んだった近代登山を普及させるために、日本版アルパインクラブである日本山岳会の創設に尽力した。また、浮世絵コレクター・美術批評家でもあり、著書も多数執筆した。

田辺和雄 植物学者 登山家

植物学



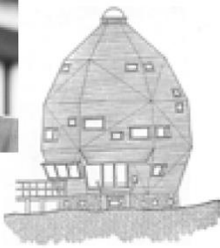
たなべ・かずお(1900~1961) 東京都出身。1926年、鹿島槍にて積雪期初登攀を記録。深田とも幾度も山行を共にした。日本高山植物研究の先駆者であった武田久吉に師事。白馬岳、八ヶ岳、尾瀬を中心とした高山植物の研究を行い、『原色高山植物』『山とお花畑 全三巻』などを世に残した。

吉阪隆正 建築家 冒険家

建築学



資料提供=早稲田大学建築学教室
本庄アーカイブス



よしざか・たかまさ(1917~1980) ル・コルビュジェの弟子のひとりとして、モダニズムの思想を日本に紹介し実践した建築家。大学勤務のかたわらキリマンジャロ登頂やアラスカ・マッキンリー遠征など、登山や冒険を精力的に行った。また、その経験から厳しい環境に耐えうる山の建築を多数手がけた。

田部井淳子 登山家

生活



写真提供=タベイ企画

たべい・じゅんこ(1939~2016) 1975年世界最高峰エベレストに女性として世界で初めて登頂。1992年には七大陸最高峰登頂者となる(女性世界初)。子育てや仕事で忙しい女性たちにも山に親しんでもらう活動や、登山を通じての東北応援活動「被災した東北の高校生の富士登山」プロジェクトをはじめ、生涯にわたって山の楽しみ方を幅広い世代に伝えた。

坂本眞一 漫画家

漫画



「孤高の人」©坂本眞一/集英社

さかもと・しんいち(1972~) 1990年「キース!!」でデビュー以来、『モトツルコマンドーGUY』、『益荒王』などの作品で人気を博す。2007~2011年「週刊ヤングジャンプ」に連載された「孤高の人」は、新田次郎「孤高の人」を原案に、現代を生きる主人公「加藤文太郎」を創造し、圧倒的な筆力で坂本の〈山〉を描き出した。本作で文化庁メディア芸術祭優秀賞を受賞。

石川直樹 写真家 探検家

写真



「国東半島」©石川直樹

いしかわ・なおき(1977~) 2001年七大陸最高峰登頂を達成。人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。『NEW DIMENSION』『POLAR』により、日本写真協会新人賞、講談社出版文化賞。『CORONA』により土門拳賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した「最後の冒険家」ほか多数。

OUTLINE 概要

展覧会名	山へ! to the mountains 展
会期	2017年7月15日(土)~9月18日(月・祝)
会場	世田谷文学館 2階展示室 http://www.setabun.or.jp/ 157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL 03(5374)9111 FAX 03(5374)9120
開館時間	10:00~18:00 * 展覧会入場、ミュージアムショップの営業は 17:30まで
休館日	毎週月曜日(7月17日、9月18日は開館・翌日休館)
交通案内	京王線:「芦花公園」駅南口より徒歩 5分 小田急線:「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅)利用「芦花恒春園」下車・徒歩 5分
観覧料	一般 800(640)円 / 65歳以上、高校・大学生 600(480)円 / 中学生以下無料 障害者手帳をお持ちの方 400(320)円 ※ ()内は 20名以上の団体料金 ※7月21日(金)は65歳以上無料、8月11日(金・祝)「山の日」は無料観覧日
主催	公益財団法人セタがや文化財団 世田谷文学館
協賛	株式会社ウテナ
協力	加賀市、深田久弥 山の文化館、日本山岳会
後援	世田谷区、世田谷区教育委員会
助成	一般財団法人 自治総合センター
展覧会担当	世田谷文学館学芸部 中垣・佐野・井波

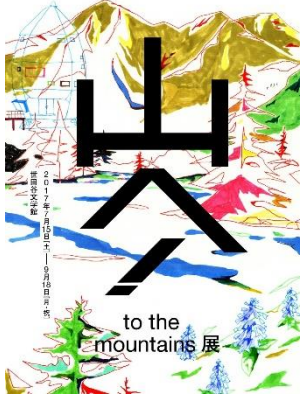
同時開催コレクション展

「ut pictura poesis—詩は絵のように コレクションにみる文学を彩る書画の魅力」 開催中~9月18日(月・祝)

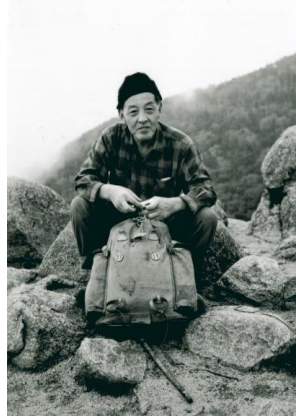
次回企画展

「濑澤龍彦 ドラコニアの地平」 10月7日(土)~12月17日(日)

IMAGES 広報写真



画像①
Illust:ミヤギユカリ / Design:秋澤一彰



画像②
深田久弥 国師ヶ岳の頂上で 1964 ©望月達夫



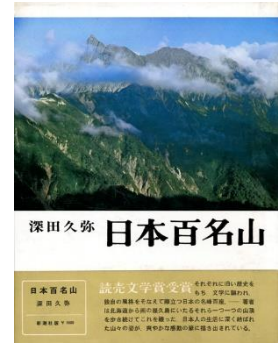
画像③
『孤高の人』©坂本眞一／集英社



画像④
石川直樹



画像⑤
野沢温泉ロッジ



画像⑥
深田久弥『日本百名山』(新潮社)



画像⑦
田部井淳子 写真提供:タベイ企画



画像⑧
『孤高の人』©坂本眞一／集英社



画像⑨
『国東半島』©石川直樹

「山へ! to the mountains 展」 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 井波・佐野 行
FAX 03-5374-9120

展覧会広報用画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、E-mail もしくは Fax にてお申し込みください。折り返し、担当者よりEメールにてJPEGデータで画像をお送りいたします。

本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、刊行・更新前に校正紙をPDF等でお送りください。また、刊行後掲載誌を1部、お送りいただけますようお願い申し上げます。

【広報用画像貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトをご検討の場合は担当までご相談ください。
- ◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はWEBサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名 _____

媒体種別 : 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト _____

発売・放送・更新予定日 _____

御社名 _____

御担当者名 _____

御住所 _____

Eメールアドレス _____

電話番号 : _____ FAX番号 : _____

画像使用の際は、下記クレジットを必ず付記し、掲載して下さい。

- | | | | |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> 画像① | Illust: ミヤギユカリ, Design: 秋澤一彰 | <input type="checkbox"/> 画像⑥ | 深田久弥 『日本百名山』(新潮社) |
| <input type="checkbox"/> 画像② | 深田久弥 国師ヶ岳の頂上で 1964 ©望月達夫 | <input type="checkbox"/> 画像⑦ | 田部井淳子 写真提供: タベイ企画 |
| <input type="checkbox"/> 画像③ | 『孤高の人』©坂本眞一/集英社 | <input type="checkbox"/> 画像⑧ | 『孤高の人』©坂本眞一/集英社 |
| <input type="checkbox"/> 画像④ | 石川直樹 | <input type="checkbox"/> 画像⑨ | 『国東半島』©石川直樹 |
| <input type="checkbox"/> 画像⑤ | 野沢温泉ロッジ | | |